

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

苗場山－天空の楽園－



朝焼けの山頂湿原

7月上旬、上越・苗場山（2145m）に登った。「苗場」の名前はスキー場で有名だが、実は苗場スキー場と苗場山は大分かけ離れた場所にある。広大な山頂に幾百もの池塘が点在し、お花畑が広がるこの山を、人は「天空の楽園」と呼ぶ。

前日、越後湯沢駅前に泊り、早朝の祓川行きバス乗車。祓川から1時間の林道歩きで和田小屋到着。朝食休憩。

7時半和田小屋発。ヌカルミの歩きにくい登りがしばらく続いた後は木道になり、8時半下ノ芝到着。周辺のイワイチョウの群生が愛らしい。9時半中ノ芝。灌木と草地の中に露岩が点在するあたかも日本庭園情。



中ノ芝



神楽ヶ峰からの苗場山本峰

サドウダンが色鮮やかだった。

10時上ノ芝。次いで小松原分岐を過ぎて主稜線歩きになり11時、神楽ヶ峰。ここで初めて苗場山本峰が姿を見せた。

神楽ヶ峰からは正面に苗場山本峰を仰ぎ見ながらの大下降で、11時半雷清水の水場。この辺のお花畑が評判ではあるが、今年は雪が遅くまで残ったせいかイワカガミやチングルマがボチボチ姿を見せる程度で残念でした。

ここから本峰の急登約1時間。突然ポツカリ前が開け、山頂湿原に飛び出した。1km四方の広大な湿原には無数の池塘が点在し、木道がそれを縫うように連なる。12時半、湿原の真ん中にある2軒の山小屋の一つ、自然体験交流センターに宿を取った。



自然体験交流センター

遅い昼食の後、カメラ片手に湿原散策に出かけた。湿原の半ば以上がまだ残雪に覆われ、残念ながら花の季節は未だしである。それでも、チングルマ、ヒメザクラ、ワタスゲなどにあちこちで出迎えられた。

途中、ポツポツ雨が来始めた。急ぎ宿に戻ったところで、見知らぬ仲間と山談義で意気投合し、早目ではあるが、お定まりの酒盛りに突入した。

翌日は雨の中、昌次新道経由で下山した。約4時間で赤湯温泉。一風呂浴びてサッパリしたつもりが、それから又、元湯バス停までの4時間の道中のキツイこと。すっかり大汗をかいた。